

社会科(歴史的分野)学習指導案

・学校名	中学校	指導教員	実習生
・日時	平成26年 6月 17日 (火曜日) 第3校時	場所	2年1組教室
・対象	2年 1組 (生徒数: 男子 19名、女子 12名; 合計 31名)		
・単元名	日本の原始時代	日本の古代国家の形成	

・単元の主たる内容と目標

「日本の原始時代」については、日本と大陸が地続きであったこととおさえ、農耕の広まりとともに人々の生活が変化していったことに気付かせる。
 「日本古代国家の形成」については、大陸の文化、制度を取り入れながら国家の仕組みが整えられていったことに気付かせる。

・単元の指導計画 (配当時数および本時の位置づけ)

・日本人のルーツと縄文時代(1時間)	◎稲作の広まりと弥生時代(1時間)	◎ヤマト王権と渡来人(1時間)
・東アジアの統一国家(1時間)	・律令国家を目指して(1時間)	
計5時間(◎が本時)		

・本時の主題名 稲作の広まりと弥生時代 ヤマト王権と渡来人

・本時に使用する教材・教具
 (日本文教出版 『中学社会 歴史的分野』)

・本時の目標

稲作が広まったのち、むらどうしの争いを経て小国が誕生し、その中心が邪馬台国であったことを理解させる。
 古墳時代、ヤマト王権が誕生し、朝鮮半島から伝わった技術によって人々の生活・農耕技術が発達したことを理解させる。

<教材観・題材観>

弥生時代、むらごとに指導者をたて、強いむらが他のむらを従えくになつた。奴国は漢、のちの邪馬台国は魏に使臣を送り金印、銅鏡を授けられている。この後の時代、大陸の文化・制度を取り入れるきっかけになったので重要な点である。
 力のある首長は豪族と呼ばれ、彼らは3世紀中ごろから、自らの権力を象徴する巨大墳墓である古墳をつくった。さらに大和地方の豪族はヤマト王権という連合政権をつくり、九州北部から関東まで支配し、大王を支配者とした。この頃の人々の暮らしは、朝鮮半島から伝わった鉄製農具を用い農耕技術が発達した。

<生徒観>

生徒たちは卑弥呼・古墳という言葉を知っていても、どのようにして国が形成されていったのかについてはまだ知らない。また、当時の人々の暮らしに中国・朝鮮が与えた影響の大きさをあまり理解できていない状態である。
 2年1組の生徒は運動会練習などで早くから登校して疲れているにもかかわらず、発問に対しても積極的に発言する生徒が多く見受けられ、学ぼうという意欲が高いように感じる。

<指導観>

本時で覚えるべき人物名や重要語句は少ないが、日本の古代国家の形成において重要な内容であるため、説明するときは簡潔に話し、生徒に歴史の流れをつかませやすくするよう留意する。また、これまで授業を行った際、反応の良い生徒の方向ばかりを向いて授業をしがちなので、教室全体、生徒全員の顔を見ながら授業を展開するよう努める。

・本時の評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
くにながどのようにして形成されたのか関心を持てたか。	古墳という巨大な墓をつくることのできたのはどのような人であるか考えることができたか。	なぜ古墳時代に農耕技術が発達したのか説明することができる。	くにながどのようにして誕生したのかを理解できたか。 ヤマト王権誕生の経緯を理解できたか。

・本時の指導過程

	指導項目	指導内容	学習活動		指導上の留意点	時間
			教師のはたらきかけ	生徒の学習活動		
導入	前回の復習	最初に発問し、弥生時代は稲作が本格的に広まった時代であることを説明する。そのあと教科書P29を開かせる。	「弥生時代には何が広まったか」発問する。	発問に対し考え、発表する。	テンポ良く進める。	3分
展開	むらからくにへ	まず板書する。むらに有力者があらわれ収穫物をめぐって争いが起きることを説明。発問後資料④を見せ、物見やぐらの説明。くになが誕生したこと、奴の国王と漢の関係について説明。資料⑥を見せる。	「敵から攻めてこられてもすぐ発問できるようにするために」発問する。	板書をノートに写す。発問に対し考え想像する。資料⑥を見る。	発問が難しかった場合ヒントを与える。 当時、日本は「倭」と呼ばれていたことの説明する。	15分
	邪馬台国	まず板書する。女王卑弥呼が30ほどの小国を束ねていたことを説明する。邪馬台国の所在は、はっきりわかっておらず、北九州説と大和説があることを説明する。	弥生時代から日本に古代社会の仕組みが整えられていったことに気付かせる。	板書をノートに写す。古代国家も仕組みが整えられつつあることを理解する。	当時の中国は、魏・蜀・呉の三国時代であり、邪馬台国は魏と関係をもっていた。	10分
	巨大な墓とヤマト王権	まず板書する。古墳について説明。資料①を見せる。発問。大仙古墳と前方後円墳について説明する。資料①、⑤を見せる。大和地方に古墳を作った権力者たちがヤマト王権をつくったと説明する。	教科書P30を開かせる。「巨大な古墳を作れるのはどんな人か」発問する。資料①、⑥を見せる。	板書をノートに写す。教科書P30を開く。発問に対し考える。資料①、⑥を見る。	土偶と埴輪の違いについて説明をする。	10分
整理	大王と豪族と人々	まず板書をする。ヤマト王権の支配者が大王であり、それに豪族がつかえていたことを説明する。当時の人々の暮らしに朝鮮の文化が伝わり鉄製の農具を使うようになった。これにより生産力が高まり、農耕が発達したことを説明する。資料④を見せる。	資料④を見せる。これから先の時代、中国や朝鮮から様々な文化や制度が伝わることを予告する。	板書をノートに写す。これから中国・朝鮮の文化・制度を取り入れていくことを理解する。	さまざまな文化や制度(仏教や法律制度)	10分
	まとめ	むらからくにへ→女王卑弥呼の邪馬台国。北九州説と大和説。 巨大な権力を持つ王が古墳をつくる。このうち大和地方の王たちがヤマト王権をつくる。→大王が支配し、豪族がつかえる。 朝鮮半島から鉄製農具が伝わり、農耕が発達。	本時の内容をまとめ、時間が余っていれば本時の内容について発問する。	本時の内容を整理する。	簡潔にまとめる。	2分

・ご高評価欄